

横江野開付近常願寺川河床

立山町横江野開地内から常願寺川の河床に降りると、右岸及び中州に火山灰に富んだ地層が広く見られる。砂岩層が優勢な地層だが、その中に、凝灰岩層や泥岩層、礫岩層をはさみ、炭化した材化石がいたるところで見られます。また、まれに広葉樹の葉の化石も観察できる。この地層は、「黒瀬谷累層」（約1600万年前に堆積したと推定される）にあたりと考えられます。県内には広く分布し、八尾等他地区では熱帯性の海底で堆積したと考えられるような貝化石を含む地層も少なくありませんが、この地層のほとんどは平野の網状河川の堆積物ではないかと考えられています。



この露頭へ行くには、立山町いきいき長寿センター裏にあるゲートを開けて入ることになります。ゲート横には、横江頭首工管理事務所の増水注意の看板がありますが、河川へ降りる際の許可申請は特に必要なく、ゲートのカギは横江地区の区長が管理しています。このゲートから徒歩10分ほどで、常願寺川右岸の地層を見ることができます。なお、中州へわたるにはやや水量が多いので、深めの長靴を使うか、ぬらしてもよいつもりで地下足袋を使用する覚悟が必要になります。

この露頭では、哺乳類の足跡化石が中州など数箇所に残っていることが2010年に明らかにされました。この足跡化石は、中期中新世の足跡化石としては、国内最北端の場所となります。

